



大久保小だより



平成 29 年 12 月 1 日 第 9 号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関 2 1

0 4 8 (8 5 4) 7 6 3 6

男子 155 名 女子 123 名 計 278 名

学校教育目標 **かいっぱい かしく やさしく たくましく**
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

～ 子どもも、家族の働き手 ～

校長 相川 光彦

校庭の木々の葉も紅葉から落葉へと変わってきました。11月もタンポポコンサートや、地域のたんけん、読み聞かせなどたくさんの学校行事を大勢の保護者の協力のお蔭で無事終わることができました。ご協力ありがとうございました。

大久保小学校は、昭和6年に開校して今年86歳の誕生日を迎えます。昭和32年に今の校旗・校歌が作られ、お披露目された12月1日を開校記念日と制定しました。子どもたちとは、今年も給食の牛乳で『乾杯』をしてお祝いします。

『イクメン』とは、「育児をする男性」と説明することができます。でも、少し不思議ですよね。本来、それを父親と呼ぶのではないのでしょうか。

古来日本では、「男は、外でお金を稼ぎ、女は家を守る」という考え方のもと、世の中の男性は、育児にあまり関わらなくても良いものと捉えているのではないのでしょうか。そのため、育児にかかわる男性のことを『イクメン』と称して特別の人としてしまっているように感じます。

家庭の中では、それぞれ役割があります。家の中の仕事を細かく分けていくと200ほどになるそうです。その中の一つが、生活するためのお金を稼ぐことなのです。確かに、「朝、新聞をとってくる」と「お金を稼ぐ」を同じ比重にするのは、どうなのかとも思いますが、どれも、家庭の中の仕事の一つなのです。

お手伝いは、子どもの家事分担なのですが、どちらかと言うと大人の思い付きの仕事割り当てを「お手伝い」としてしまっていないのでしょうか。家事分担ですから、誰かが代わりに行えない(行わない)ことでなければ、いけません。朝、新聞をとってくるという仕事を任せたら、責任が生じます。他の誰も手出しをしてはいけないのです。その子が、持ってこなければ、何日でも新聞は、家の中に届かないくらい我慢することが大事なのです。そうはいっても、家族ですから、互いに助け合い、協力することもたくさんあります。その一つが、子育てです。親と子どもが協力して育ち合うのだと考えています。男は、子どもと共に成長し、父親になっていくのです。父と母は、役割は違います。母は、一家の太陽です。どんな時も、母の笑顔が、心を癒してくれます。それぞれの持ついいところや個性を生かして、共に、育ち合い楽しい時間を共有してほしいと願っています。知らぬ間に子どもは、大きくなってしまいます。今を大切に全力で、子どもと向き合ってもらいたいです。親が子どもに関われる時間(特に父親)は、あまり多くありません。

家族の役割をだれかが、過重に負担することなく、助け合い協力し合って分担できるといいですね。子どもは、家の中の仕事をとおして様々なことを学んでいきます。人としての芯になる部分が育っていきます。ぜひ、家族の一員としての役割をみんなで話し合っ自己有用感や自己肯定感を培ってほしいと考えています。

12月は、1年のうちで最も暗くなるのが、早くなります。安全に気を付けて生活できるようにしたいものです。これからも、「明日も学校に行きたい」と思える大久保小のために私たち教職員も保護者と力を合わせて、『やればできる』を合言葉に子どもたちのよさを引き出し、「ほめて伸ばす教育」を推進して参ります。よろしくお願ひします。